

私募債まるわかりガイド



※当資料に従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。
※あくまで参考としてご利用いただくことを想定している資料です。実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。
※当資料は、2025年11月時点の内容となっております。最新の情報は国の資料等をご確認ください。

私募債まるわかりガイド

私募債の概要

私募債とは、企業が資金調達をするために発行する有価証券（社債）の一種です。

非上場企業が株式を公開せず、金融機関や限定された投資家グループなど、少数の投資家などが引き受ける形で資金を集める方法として利用されます。比較的柔軟な条件で資金を集めることが可能です。

私募債の3つのタイプ

私募債には以下の3つのタイプがあります。

- ・ **プロ私募債**：銀行や証券会社などの専門機関（適格機関投資家）を対象とします。
- ・ **少人数私募債**：一般の投資家（経営者の友人、親族、取引先など）を対象とします。
- ・ **銀行引受の私募債**：銀行が投資家を集める（または買い取る）債券です。

私募債まるわかりガイド

私募債と公募債の違い

私募債と公募債は、募集対象と規模が異なります。

項目	私募債	公募債
募集対象	少数の個人や投資家（個別に打診）	金融機関を通じ、広く一般に募集
特徴	手続きが簡易	広範囲から資金調達が可能
コスト	経費を抑えやすい	証券会社への手数料が発生

私募債まるわかりガイド

■ 私募債のメリット

資金調達コストが低い

公募債と比べて資金調達の規模が小さく、社債管理者の設置などが不要。手続きにかかる費用を抑えることが可能です。

資金調達を実施しやすい

銀行融資とは異なり、事前の担保や保証が不要な場合が多いため、資金調達が容易でスムーズに行えます。

信用力の向上につながる

発行された社債で要件を満たしたものは、証券保管振替機構に記録・公開されます。また、「銀行保証付私募債」などは銀行等の審査を通過した証明となり、高い信用力をアピールできます。

発行手続きが簡単

公募債発行時に必要な「有価証券届出書」の提出などが省略でき、手続きが簡易です。そのため、資金を早く調達したい場合に適しています。

安心して契約できる

「金銭貸借契約書」など一定のフォーマットに従うため、契約内容が明確であり、個人間の貸し借り（口約束など）と比べてトラブルを防ぎやすいです。

私募債まるわかりガイド

■ 私募債のデメリット

償還条件の変更ができない

業績が悪化しても、発行時に設定した償還条件（元金の一括返済など）の変更はできません。

大きな資金を集めにくい

「少人数私募債」では募集人数が50人未満に限られるなど、一度に多額の資金調達は難しい場合があります。

銀行引受の手数料

銀行引受の場合、事務手数料や保証料などで数百万円から数千万円のコストがかかることがあります。

節税効果はない

2013年の税制改正により、役員などが受け取る社債利息は総合課税の対象となり、以前のような節税手法は使えなくなりました。

私募債まるわかりガイド

■ 私募債発行の基本的な流れ

1. 事業計画の作成、株主総会などでの決議
2. 社債引受人の決定・勧誘
3. 引受希望者の申込受付・審査
4. 発行金額の決定、募集決定通知書の送付
5. 申込金額の受領、社債券の発行（社債原簿への記録）
6. 償還期間終了後、元本の償還